

定期作況報告

平成20年8月訂正版
(8月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年より低く、最低気温、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比59%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比130%）。

8月上旬：最高気温は平年並み、平均気温、最低気温は平年よりやや低かった。降水量は平年やや少なかった（平年比68%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比131%）。

8月中旬：最高気温、平均気温は平年より低く、最低気温は平年よりやや低かった。降水量は平年並み（平年比86%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比79%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は平年と比較して、気温は平年よりやや低く、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並みであった。

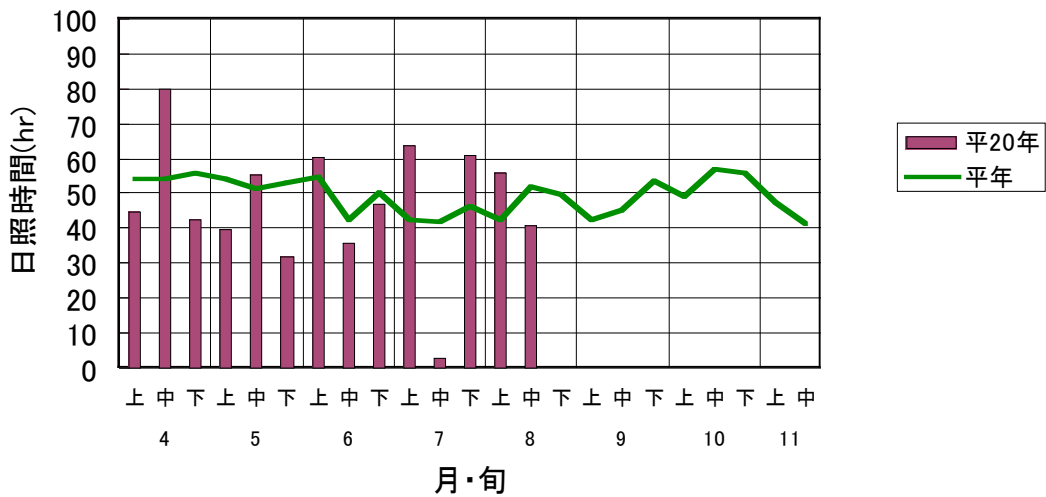
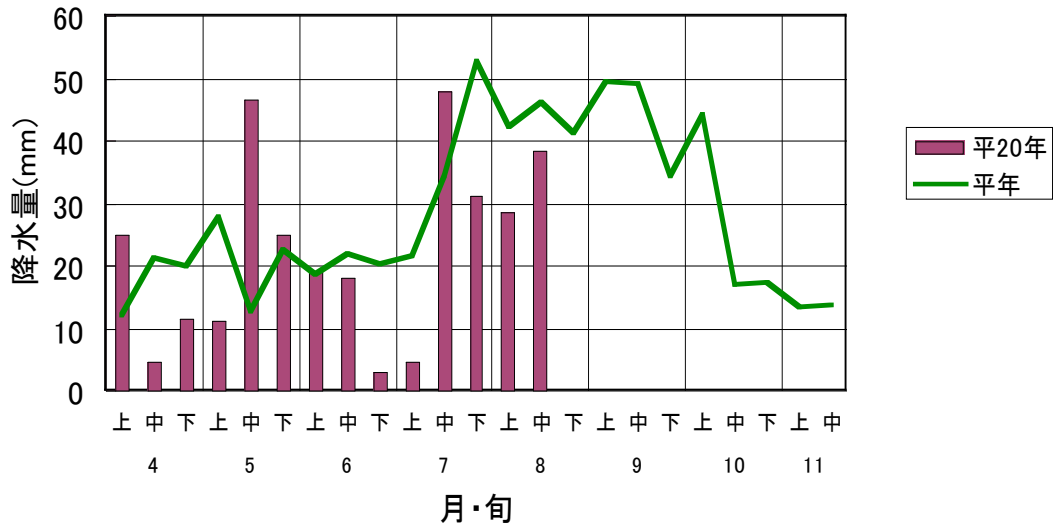
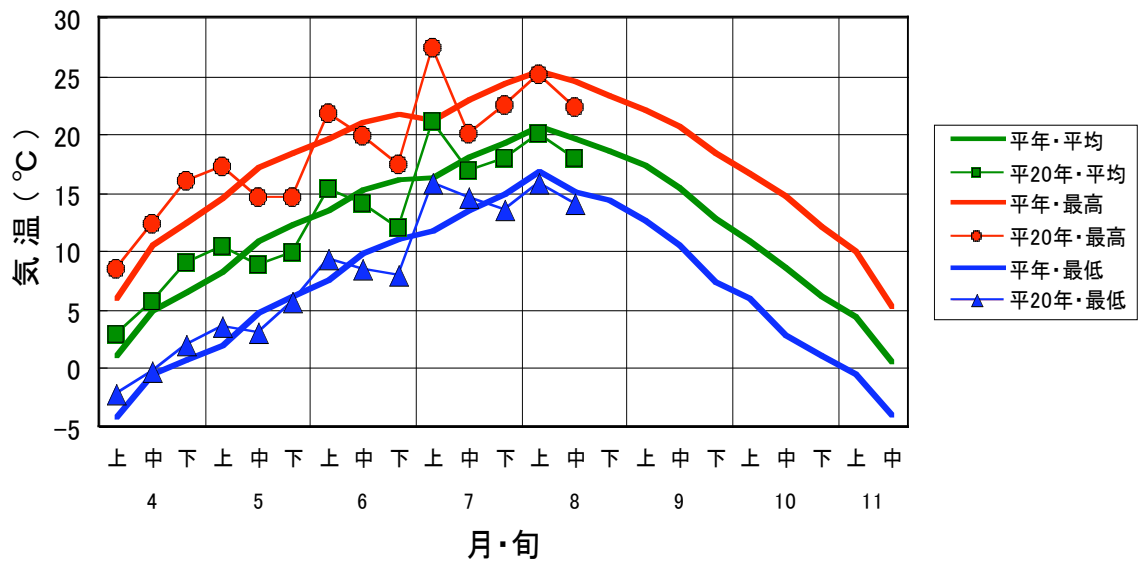
注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	18.0	19.3	△1.3	22.4	24.3	△1.9	13.5	14.9	△1.4
8月上旬	20.1	20.8	△0.7	25.1	25.5	△0.4	15.8	16.9	△1.1
8月中旬	18.0	19.6	△1.6	22.3	24.5	△2.2	14.1	15.1	△1.0
平均	18.7	19.9	△1.2	23.2	24.8	△1.6	14.4	15.6	△1.2

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	31.0	52.9	△21.9	60.8	46.6	14.2
8月上旬	28.5	42.2	△13.7	56.0	42.6	13.4
8月中旬	38.5	46.2	△7.7	40.7	51.7	△11.0
合計	98.0	141.3	△43.3	157.5	140.9	16.6

注1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2）平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：平年並

事由：7月中旬以降、気温は平年よりやや低く推移したが、成熟期は平年より1日遅い7月26日であった。穂数、千粒重ならびにリットル重は平年をやや下回ったが、子実重は平年並であった。以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	7.26	7.25	1
子実重 (kg/10a)	602	605	△ 3
同上平年比 (%)	100	100	0
リットル重 (g)	790	814	△ 24
千粒重 (g)	37.0	39.0	△ 2.0

注) 平年値は前7カ年中、平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：やや良

事由：7月中旬以降は低温傾向で推移し、成熟期は平年より5日程度遅れたが、登熟期間は平年並みとなった。稈長、穂長は平年より長く、穂数は平年より多い(前報)。以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.13	8.7	6	8.11	8.7	4

注) 平年値は前7カ年中、「ハルユタカ」は平成15年(最凶)、18年(最豊)、「春よ恋」は平成14年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや不良

事 由 : 7月中下旬は平年より低温で推移したことから、開花期と抽糸期はともに平年より5日遅れた。その後も8月中旬が平年よりやや低温で推移したため、葉数は平年並であったものの、草丈は平年よりやや低かった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	8.9	8.4	5
抽糸期 (月.日)	8.8	8.3	5
草丈 (cm) (8月20日)	288.8	296.7	△7.9
葉数 (枚) (8月20日)	14.7	15.0	△0.3

注) 平年値は前4か年の平均 (供試品種を変更したため)。

4) 大 豆

作 況 : 平年並

事 由 : 7月中旬の平均気温がやや低かったため、開花始は平年より3~4日遅かった。7月3~5半旬が著しい少照であったため、主茎長は平年より高く、徒長気味である。7月下旬の平均気温はやや低かったが、8月上旬の平均気温は概ね平年並に推移したため、生育、着莢に及ぼす影響は小さかった。主茎節数は平年並、分枝数は平年よりやや少ない。着莢数は「トヨコマチ」で平年よりやや多く、「ユキホマレ」は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.23	7.20	3	7.24	7.20	4
主茎長 (cm) (8月20日)	69.6	60.8	8.8	71.2	59.9	11.3
主茎節数 (8月20日)	11.6	11.3	0.3	11.4	11.1	0.3
分枝数 (本/株) (8月20日)	5.3	5.9	△ 0.6	4.7	5.3	△ 0.6
着莢数 (莢/株) (8月20日)	70.6	64.9	5.7	63.5	62.7	0.8

注1) 平年値は前7か年中、平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆

作況：やや不良

事由：7月下旬の平均気温はやや低かったため、開花始は平年より2～3日遅かった。7月4半旬が低温であったため、「サホロシヨウズ」では着莢への影響がみられ、着莢数は平年よりかなり少ない。一方、「エリモシヨウズ」ではその影響は小さく、着莢数は平年並である。主茎長は「サホロシヨウズ」は平年並であるが、「エリモシヨウズ」は平年より短い。主茎節数、分枝数は両品種とも概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月・日)	7.26	7.24	2	7.28	7.25	3
主茎長(cm) (8月20日)	57.2	55.5	1.7	52.7	61.9	△ 9.2
主茎節数 (8月20日)	12.1	11.6	0.5	12.9	13.1	△ 0.2
分枝数(本/株) (8月20日)	5.0	5.2	△ 0.2	4.8	4.8	0.0
着莢数(莢/株) (8月20日)	30.5	48.5	△18.0	34.9	35.0	△ 0.1

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：7月下旬の平均気温はやや低かったが、8月上旬の平均気温は概ね平年並に推移したため、生育、着莢に及ぼす影響は小さかった。草丈、分枝数は平年をやや上回り、主茎節数、着莢数はほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	43.1	39.2	3.9	43.9	41.4	2.5
主茎節数 (8月20日)	5.1	5.4	△ 0.3	5.3	5.8	△ 0.5
分枝数(本/株) (8月20日)	6.1	4.6	1.5	6.0	4.2	1.8
着莢数(莢/株) (8月20日)	21.9	23.2	△ 1.3	20.4	21.0	△ 0.6

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況：やや不良

事 由：7月中旬以降、圃場は湿潤な状態であり、茎長は両品種とも平年より20cm以上徒長している。ただし、「男爵薯」では8月上旬までに茎の伸長がほぼ停止したが、「コナフブキ」はその後伸長がみられた。「男爵薯」では塊茎の肥大が順調に進んだため、上いも重は平年をやや上回ったが、「コナフブキ」では平年比72%と低かった。でん粉価は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年を2ポイント以上下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	58	37	21	95	71	24
茎数(本/株) (8月20日)	3.5	3.1	0.4	3.5	2.8	0.7
上いも重(kg/10a) (8月20日)	4111	3982	129	2592	3594	△ 1002
でん粉価(%) (8月20日)	14.4	16.5	△ 2.1	19.2	21.5	△ 2.3

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17(最豊)年、「コナフブキ」は平成15(最凶)、18(最豊)年を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：やや良

事 由：7月下旬及び8月中旬の気温は低かったものの、降水量及び日照時間は十分であったため、地上部の生育だけでなく地下部の肥大も順調である。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	68.4	64.6	3.8	64.3	59.0	5.3	69.6	64.3	5.3
生葉数(枚) (8月20日)	24.3	27.3	△ 3.0	24.9	26.8	△ 1.9	24.2	26.0	△ 1.8
茎葉重(g/個体) (8月20日)	962	945	17	1109	902	207	1042	908	134
根重(g/個体) (8月20日)	623	601	22	698	646	52	477	468	9
根周(cm) (8月20日)	28.8	28.7	0.1	31.0	30.8	0.2	27.2	26.1	1.1

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成15年(最凶)及び17年(最豊)、移植「アーベント」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)、直播「モノホマレ」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況: やや不良

事由: 2番草は平年並の8月8日に収穫を行った。2番草は、1番草刈取後の再生期間にあたる6月下旬から7月上旬にかけて少雨傾向で推移したため、草丈と節間伸長程度は平年並であったものの、乾物収量は平年比95%とやや少なかった。また、1番草との合計乾物収量は平年比91%とやや少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	8.8	8.8	0
節間伸長程度	2番草	3.3	3.5	△ 0.2
病害罹病程度	2番草	4.0	3.3	0.7
草丈(cm)	2番草	70	65	5
生草収量(kg/10a)	2番草	925	1054	△ 129
乾物率(%)	2番草	24.1	22.5	1.6
乾物収量(kg/10a)	2番草	222	233	△ 11
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	827	904	△ 76

注) 平年値は前6か年のうち平成19年(最凶年)を除いた前5か年の平均(耕種概要と調査項目を大幅に変更したため)。節間伸長程度は、1:無〜9:極多。病害罹病程度は、1:無または微〜9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作 況：不良

事 由：7月5日の暴風雨で冠水した作況調査圃場の株の半数以上が腐敗した。「スーパー北もみじ」の球肥大期は「改良オホーツク1号」と同様に2日遅れた。また、両品種とも地上部の葉先枯れ症状が進み、球肥大は停滞した。倒伏期は「改良オホーツク1号」では平年より2日早い8月1日、「スーパー北もみじ」では平年より1日早い8月12日であった。「改良オホーツク1号」は8月13日に根切りを実施した。平年と比較した一球重は、「改良オホーツク1号」では約13%少なく、「スーパー北もみじ」では約9%少なかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.9	7.7	2	7.23	7.21	2
倒伏期 (月.日)	8.1	8.3	△ 2	8.12	8.13	△ 1
一球重(g) (8月20日)	213.9	246.5	△ 32.6	230.6	253.6	△ 23.0

注) 平成15年に圃場を変更したため、平年値は平成15～19年の5か年平均。